第３章　高専本科卒業生の現状について

３．１　はじめに

本章では，本科卒業生に対するアンケート結果をもとに，本科卒業生の現状に関する分析，考察を行った。アンケート集計結果は本報告書の最後に付録として添付されており、本文中でそれらを引用する際は、本科卒業生アンケートは【本科１－１】のように表す。ここで、１－１は質問の番号に対応している。

今回のアンケートの対象となった本科卒業生の総数は，昭和 54 年 3 月から平成 13 年 3 月までに卒業した 2487 名である。その内，回答が得られたのは 238 名であり，回収率は 12%足らずと低い。回答者の性別，年齢，卒業年，学科の内訳は【本科１－１～１－３】に示すとおりである。回答者の男女比は８：２で男性回答者が多い。年齢層は 20 歳から 44 歳まであり，各年齢によって回答者数の多少はあるが，各年令 10 人前後の人が回答している。卒業年についても若干のばらつきはあるが，学科別回答数についてはほぼ３学科とも同程度の回等数を示している。【本科１－４、１－５】は回答者の現在の身分および最終学歴を示している。回答者の８割が社会人，２割が学生であり，最終学歴は本科卒業が８割を占め，２割は大学，大学院となっている。

アンケート結果分析および考察の視点としては以下の３点を基本とした。

１）本科卒業生の就職先企業の傾向分析
２）会社における卒業生の自己評価
３）同窓会 10 周年記念誌におけるアンケート結果との比較，検討

３．２　本科卒業生の現状

（１）就職先企業について

図３．２－１に就職先企業の業種を示す。機械電気工学科の卒業生（ＭＥ）の業種では機械が最多で，次に電気機器，電気ガス業，化学，サービス業が同率で並んでいる。情報電子工学科の卒業生（ＩＥ）の業種はサービス業が最多で，次いで電気・ガス業，電気機器が同率で並んでい

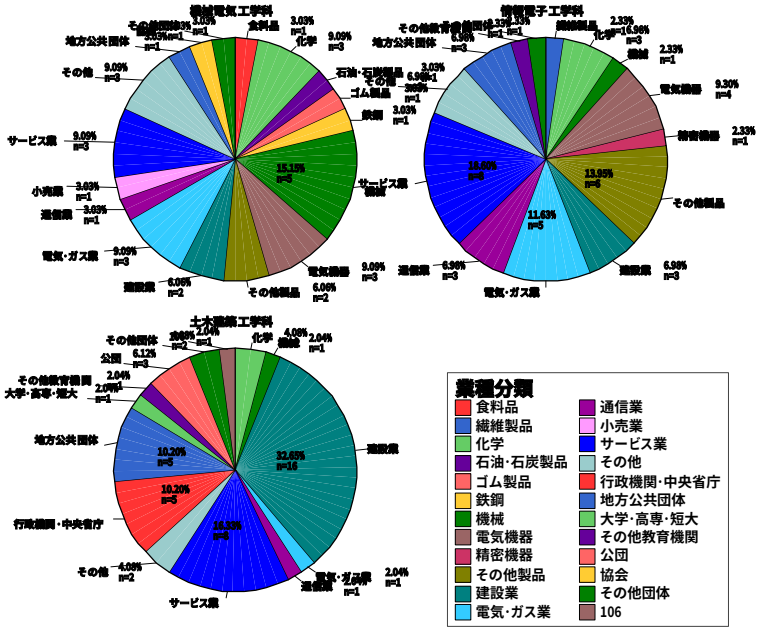


図３．２－１　就職先企業業種

る。土木建築工学科の卒業生（ＣＡ）の業種では，建設業が最多，次いで公務員関係，サービス業が主な業種となっている。これらより、各専門分野に代表される業種と同等にサービス業がどの分野においても重要な業種となっていると言える。

就職先企業の資本金については【本科２－２】に示している。ＭＥでは，６割程度が資本金 10 億以上の大企業，３割が中小企業，1 割が官公庁で働いている。ＩＥでは５割程度が大企業，４割程度が中小企業，１割程度が官公庁で仕事をしている。ＣＡでは３割程度が大企業，３割程度が中小企業，４割程度が官公庁で仕事をしている。全体を平均すると、回答者の５割程度が大企業、３割程度が中小企業、２割程度が官公庁で働いていることになる。【本科**２－３**】は就職先の職種を示している。これによるとＭＥ，ＩＥは研究開発，設計，システムエンジニアが多い。ＣＡは施工管理，設計が主な業種となっている。いずれの科においても職種分類の“その他”の割合が 1/4 弱程度を占めていることが共通した特徴としてみられる。

現在の役職を示したものが図３．２－２（【本科２－４】）である。「役職なし」が半数を占め，役職としては主任，課長がほぼ同率で多く，その次に係長の順になっている。割合は少ないが，取締役や社長に就任している卒業生もいる。図３．２－２（【本科２－１１】）は，学歴に対応した待遇を受けているか否かに対する集計結果である。ほぼ 7 割は現在の待遇に満足し，3 割の人はやや不満，不満を示している。

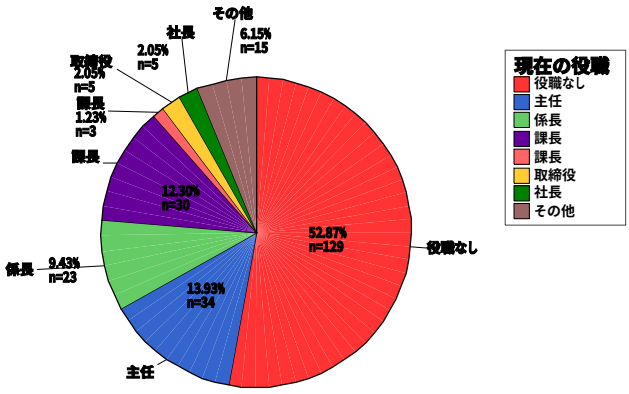


図３．２－２　職場での役職

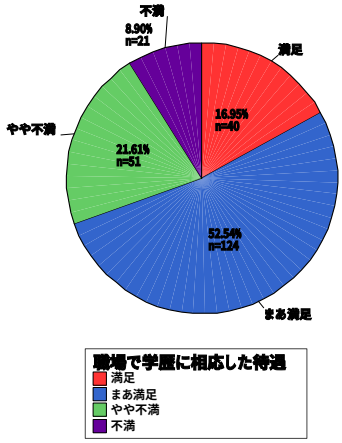


図３．２－３　職場における待遇

（２）会社における卒業生の自己評価について

仕事のやりがいに関する集計結果は【本科２－５】に示されている。この結果では，各科卒業生とも大差はなく，総合すると，“とても感じる”，“わりと感じる”が８割強を占めており，卒業生の仕事への前向きな姿勢が窺える。また、【本科２－６】は仕事にやりがいを感じないことの要因を調べたものである。第 1 位は職種の不一致，次が待遇となっている。会社において自分の能力を発揮できているかに関する集計結果は【本科２－８】に示されている。これより，９割近くの卒業生が職場での能力発揮を自己評価しており仕事のやりがいとリンクした結果となっている。

図３．２－４（【本科２－１９】）は，自分が同年代の大学卒業生と比べて会社で優れていると評価されていると思う項目の集計結果である。これによると，卒業生は専門知識，行動力，協調性，誠実さ，パソコン他情報技術に関する能力を高く評価している。このような自己評価は単なる自己満足ではなく，**図３．２－５**が示すように企業の評価とも一致している。しかし，それ以外の項目は軒並み低い評価となっており，語学力についてはまったく評価されていない。他の能力も向上させることが課題である。

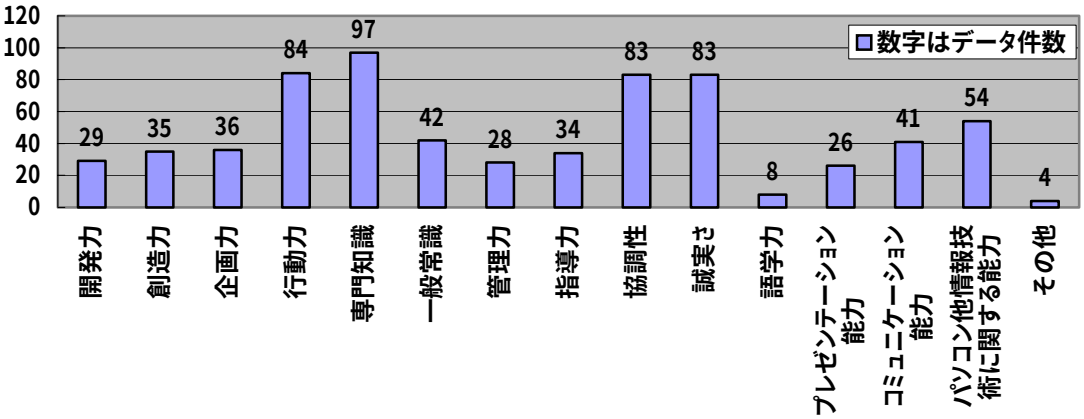


図３．２－４　自分が会社で評価を受けていると思うこと

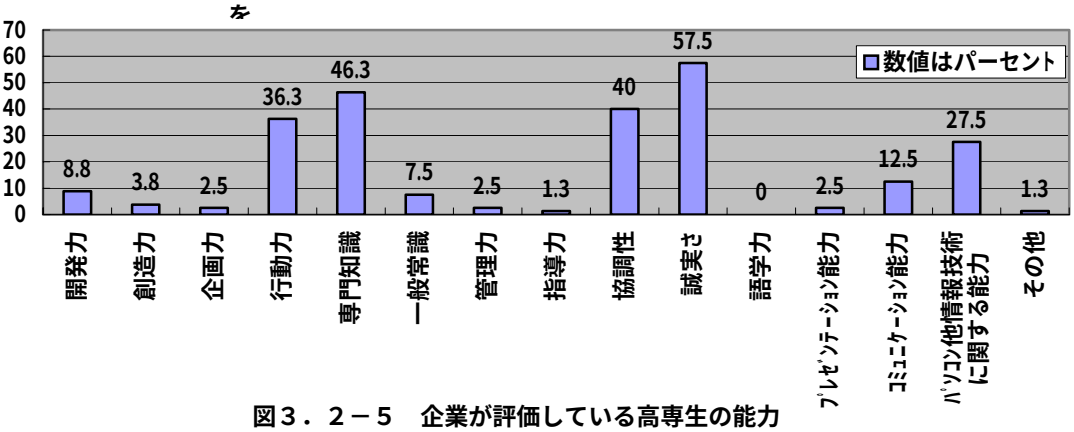


図３．２－５　企業が評価している高専生の能力

【本科２－２２】は，これまでの進路に関する良否の集計結果を示している。その結果では，高専を選んで良かったという意見が 8 割強を占めており，徳山高専での教育がしっかりなされてきたことを示している。**図３．２－６**（【本科２－２３】）は、回答者が現在の生活を総合評価した結果である。学科毎に差異はないが，最終学歴についてみると学歴の高さに従って不満，やや不満が減少している傾向が見られる。これは待遇等の問題と絡んでいると思われる（【本科２－２３】参照）。全体的にみると，やや不満，不満が 1 割程度あるものの回答者の大部分は現在の生活に満足していると考えられる。

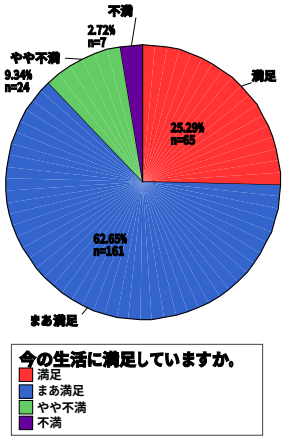


図３．２－６　今の生活に関する総合評価

３．３　同窓会 10 周年記念アンケート結果との比較

今回行われたアンケート（以下，JABEE アンケート）と昭和 63 年に行われた同窓会 10 周年記念アンケート（以下，同窓会アンケート）に共通する項目に関して比較，検討を行った。同窓会アンケートの回収率は 22.3%である。

（１）就職先企業，役職

図３．３－１は，同窓会アンケートにおける就職先企業の資本金に関する集計結果である。ME では７割が資本金 10 億円を越える大企業，３割弱が中小企業に就職しており，官公庁は数%である。IE では５割が大企業，４割強が中小企業に就職している。官公庁は１%程度で無回答が７%程度ある。CA では４割程度が大企業，３割が中小企業，２割強が官公庁に就職している。JABEE アンケートの結果と比較すると，いずれの学科においても大企業就職が約 1 割減少し，それが官公庁の増分となっていることが分かる。**図３．３－２**は職種に関する集計結果である。主要な職種は JABEE アンケートと比べて各科とも変わっていない。しかし，JABEE アンケートでは同窓会アンケートに比べて，ME,IE は設計，システムエンジニアの割合，CA は施工管理の割合が減少している。また，この減少分は，前述の“その他”に置き換わっている。“その他”とは各分野の主流以外の職種であり，それが具体的にどのようなものか調べる必要があると考えられる。このような資本金や職種における変化や特徴は，両時代における経済状況の相違や産業構造の変化を反映していると考えられる。**図３．３－３**は，会社における役職に関する集計結果である。第１期生でも就職して 10 年であり，役職を持つ卒業生は数%，９割近くは“役職なし”となっており，JABEE アンケート結果とは大きく異なっている。

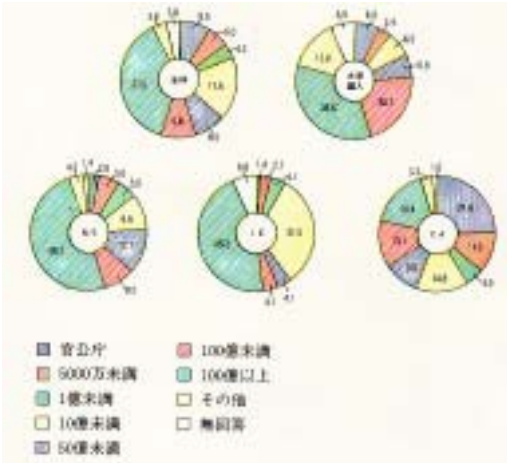


図３．３－１　資本金

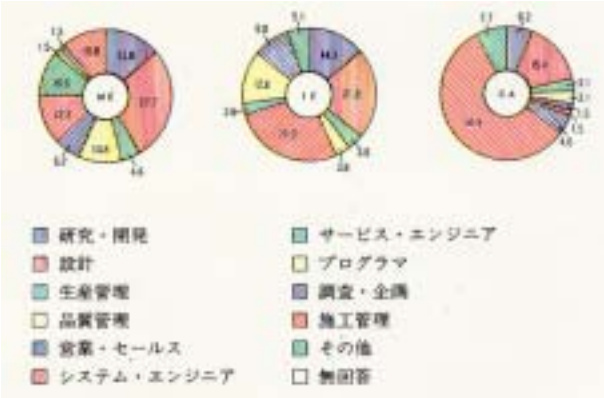


図３．３－２　業種分類

図３．３－３　職場での役職

図３．３－４　仕事のやりがい

（2）仕事のやりがい，自己評価

図３．３－４は，仕事のやりがいに関する集計結果である。JABEE アンケート結果（【本科２－５】）と全体的傾向を比較してみると，“とても感じる，わりと感じる”を合わせた割合が 20%程度増加している。この変化には，年代を重ねることにより仕事の能力や面白さ等が増加したことが考えられるが，同窓会アンケート時代よりも厳しい時代を生き抜いている卒業生のたくましくさも感じられる。**図３．３－５**は，同様に職場における能力の発揮について調べた結果である。前問同様に“とても発揮している，わりと発揮している”が JABEE アンケートでは増加していることが明らかである。卒業生の確実な成長・進歩が感じられる。

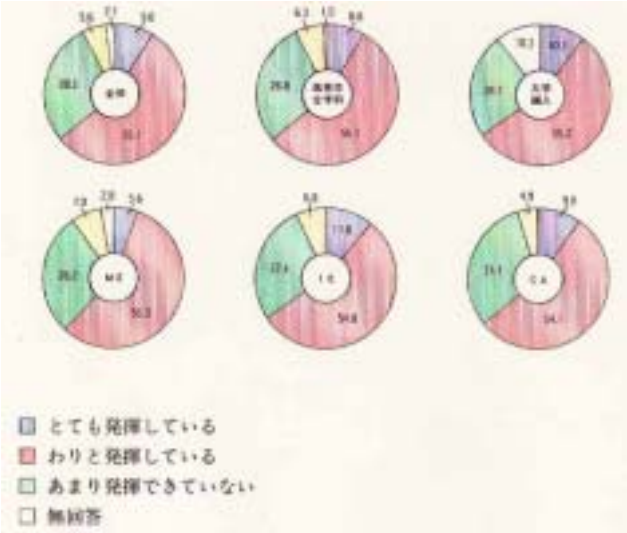
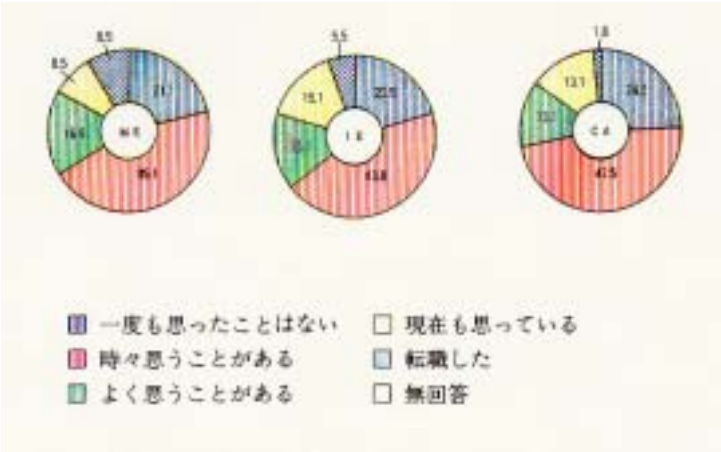


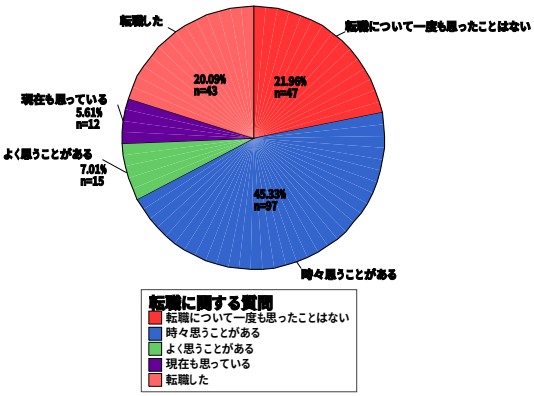
図３．３－５　職場における能力発揮

（3）進路，転職

転職に関する同窓会アンケート結果と JABEE アンケート結果を**図３．３－６**に示す。同窓会アンケートでは，転職について考えている割合は６割弱であり，転職した人は５％程度である。一方，JABEE アンケートでは，転職について考えている割合は５割強であり，転職した人は２割程度いる。転職について考えている割合は両者において大差はなく，転職願望は潜在的なものと考えられる。**図３．３－７**（【本科２－１８】）は JABEE アンケート結果の転職の要因を示している。待遇の問題が最多で，以下就業地域，職種の不一致の順となっている。



同窓会アンケート



JABEE アンケート（【本科２－１７】）

図３．３－６　転職について

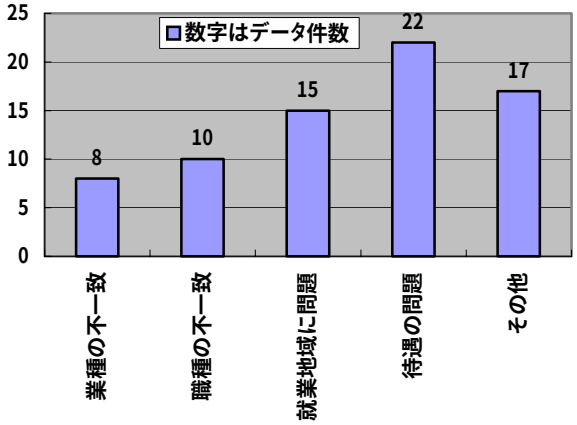
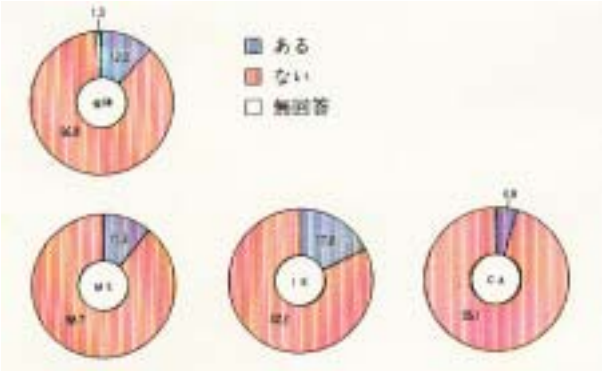
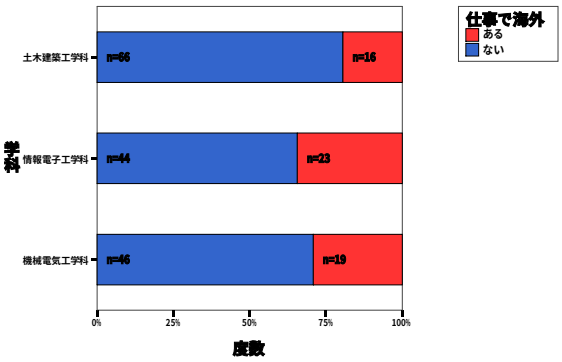


図３．３－７　転職の要因（【本科２－１８】）

（５）英語

図３．３－８には，仕事での海外経験に関する集計結果である。JABEE アンケートの結果において，仕事で海外を経験した割合は，同窓会アンケートに比べて約２倍となっており，企業における国際化がより進んでいることを示している。**図３．３－９**は，職場における英語の必要性について尋ねた結果である。ＭＥ，ＩＥはＣＡに比べて英語の必要になる機会が多いようである。両アンケートにおいて英語が職場で必要になっている割合を比較すると，ME で 14%，IE,CA で７%増加している。英語力の自己評価は，**図３．３－１０**に見られるように，両アンケートにおいて８割超の卒業生が自信がないことを示している。英語力の増強は，上述の企業からの評価もあったように，本高専の重要課題と言えよう。



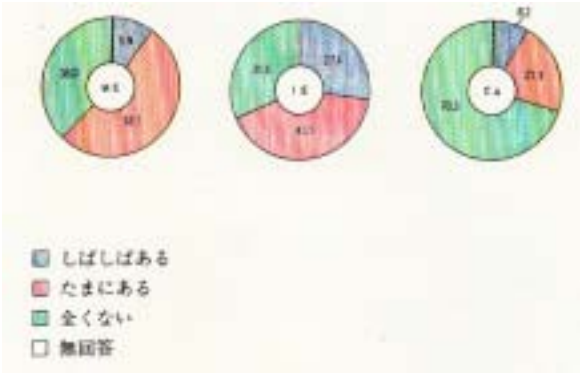


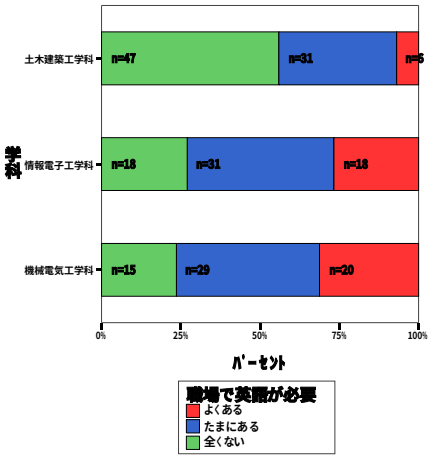
同窓会アンケート　　**JABEE アンケート（【本科２－１５】）**

図３．３－８　海外における仕事

３．４　本章のまとめ

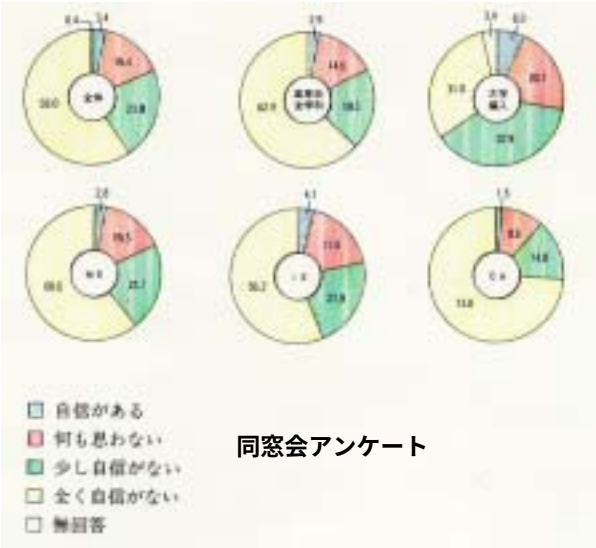
本科卒業生に対するアンケート結果から卒業生の現状に関する分析，考察を行った。今回のアンケートに回答頂いた卒業生の就職先としては、５割程度が大企業、３割が中小企業、残り２割が官公庁となっている。その業種については、各専門分野を代表するもののほかに、サービス業



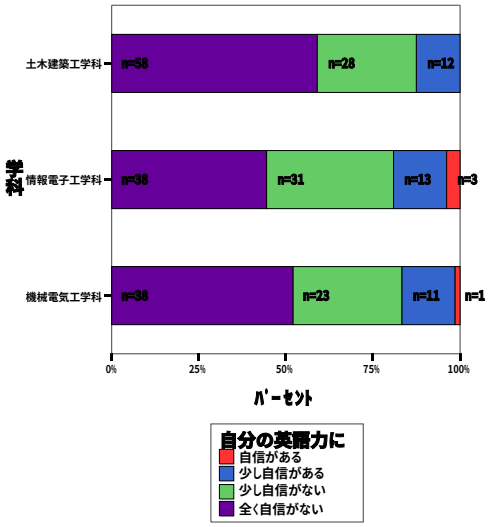


同窓会アンケート　　JABEE アンケート（(本）２－１６）

図３．３－９　職場における英語の必要性



同窓会アンケート



JABEE アンケート（【本科２－２４】）

図３．３－１０　自分の英語力に・・・

の占める割合が目立っており、ＩＥではそれが最多を示した。また、職種においても各専門分野を代表する業種が最多を占める一方で、その他に分類される職種の割合が全体の 1/４程度あることが明らかとなった。これらの特徴は、同窓会アンケート結果と比較され、経済状況や産業構造の変化を反映した両者の相違が見られた。

本科卒業生は，さまざまな職場において自分の専門知識や協調性，誠実さを自負し，仕事にやりがいを持って活躍している様子が窺えた。また、彼らは、学歴に対応した待遇を受け、現在の生活をほぼ満足しているようである。また、会社における活躍ぶりは企業からも評価されているが、英語力不足等のこれから解決しなければならない課題も多いことが明らかとなった。

同窓会アンケートとの比較では、上述の就職先企業の他に、役職や仕事のやりがい、自己評価等に関して検討され、本科卒業生の着実な成長、進歩が推察された。

（担当：渡辺）